

---

# 夕焼けの空

まなつか

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夕焼けの空

### 【Nコード】

N6816U

### 【作者名】

まなつか

### 【あらすじ】

クリスマスを女の子と過ごせなかった僕と梅原。

それはどうしようもない程に寂しい物だった。

夕暮れ時、僕と梅原は寒い中ポケットに手を突っ込んで歩いてい  
た。

「なあ梅原」

「どうした……大将？」

「クリスマス……やっぱりダメだったな」

僕がぼそりというとな奴も赤く染まった空を見上げながら

「そうだな……来年になるか」

「来年はもう森島先輩はいないんだよな」

「そりゃ……そうだな」

「梅原……僕、どうすればいいのかわからない」

梅原は立ち止まって困惑した表情になる。

「おまえ……」

「ごめん、梅原。なんでもない」

「……」

クリスマスの日。僕は結局梅原と創設祭を見て回ることにした。  
だけど、それはどこか寂しい物だった。

それから1ヶ月。何もせずばーっと過ごしてきた僕にある日梨穂と  
子のうわさ話が飛びこんできた。

「なあ大将」

その日もよく晴れていた。教室でばーっと喋りまくっている薫と  
田中さんの姿を見ていると梅原がやってきた。

「桜井さん……最近変な噂を聞くんだが……」

「梨穂子が……？ 何かあったのか？」

「ほら……香苗さんいるじゃないか」

「ああ、あの香苗さんだろ？」

「ああ……その香苗さんと最近とても仲がいいらしい」

（何を言っているんだ……？）

「仲がいいって……もとからじゃないか。何を今更」

「あのな……なんていうか、ほら、レスビアンとか、そういう感じらしい……」

「梨穂子と香苗さんが!？」

「しっ！ 大将、声がでええぜ」

「ご、ごめん」

「それにしてもなあ……あの二人、仲がいいとっていたけどそこまですなあ」

（まさか梨穂子がそんなほうに行ってしまうなんて）

「他にもな、ほら、公園で会った七咲。あいつは三年生の式井とかいうやつと付き合っているらしい」

「そうなんだ……」

「なんてこつたい。俺らだけとり残されているようじゃないか」

「そうだな」

二人してため息を付いているところにたんぽぽのような明るい声がかかった。

「やつほー！ お二人さーん。なによー暗いじゃないの」

「薫……お前は攻略対象じゃないからな」

「は？ 攻略対象？ 何それ？」

「しっ！ 大将！」

「わわ、ごめん」

「ん……？ よくわかんないけど、人生長いんだから明るく生きなさい」

「あ、ああ……」

「そんじゃ」

たまには薫もいいこと言うじゃないか。

僕は正直言ってもう選択肢がないのかもしれない。  
だけど、ないなら作ればいいじゃないか。  
僕はそう思って梅原と共に再び歩き出した。

「行こうぜ、梅原。また新たな出会いがあるさ」

(後書き)

こんにちは、まなつかです。

久々の二次創作の投稿となります。

思いつきで五分で書き上げたものです。

本当は梅原といちゃいちゃちゅっちゅさせようと思っていました  
が……。

それでは。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6816u/>

---

夕焼けの空

2011年10月7日23時44分発行